

山下 美樹ゼミナール【経済-30 クラス】

【**題目**】異文化コミュニケーション力向上を目指して:ヒューマンライブラリープロジェクト

【**到達目標**】ヒューマンライブラリーの実施を通して、グローバル人材に求められる異文化間能力の向上を目指す。ヒューマンライブラリー(生きている図書館)は偏見の低減、文化的多様性に寛容な社会、異文化共生社会の実現を目指し、デンマークで2000年に始まる。現在は世界60カ国以上に広がり、日本国内でも広く実施されている。ヒューマンライブラリーとは、人が「本」となり、自らの人生について語るプロジェクトである。ゼミ生が「司書」となり、「本」になる人を選定し、イベントに参加する「読者」との「対話」を図る。「本」役には主に社会的マイノリティー(LGBT、障がい者、難病患者、ホームレス、元無国籍者、他)の方々を選ばれるが、他にも、異文化共生、高齢者対策、いじめ問題、子育て問題や、戦争経験者、ご当地アイドルの活動、麗澤大学の留学生の経験など、さまざまな内容をテーマとし、それぞれの当事者の方々の本になっていただくことも可能である。

【**講義内容**】学生自身が中心となり、ヒューマンライブラリー(生きている図書館)のイベントを実施する。ゼミ生が司書として、「本」となってくれる人を探し、本イベントを学内、大学近隣で実施する。このプロセスを通して、普段会うことのできない人々との出会いを体験する。卒論研究プロジェクトは、ヒューマンライブラリーで自分が担当した本役の方の「人生の語り」を基に作成する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション(授業の進め方について)
- 第2回 活動計画①プロジェクト決めとビジョンメイキング
- 第3回 活動計画②チームビルディングと役割分担
- 第4回 活動計画発表
- 第5回 グループ活動とリーダーシップ
- 第6回 実施準備
- 第7回 活動先へのアクセスの仕方
- 第8回 実施準備
- 第9回 実施準備
- 第10回 実施準備
- 第11回 実施準備
- 第12回 ヒューマンライブラリー実施
- 第13回 実施の振り返り
- 第14回 成果発表とディスカッション
- 第15回 成果発表とディスカッション

【身に付くように意識している汎用的能力】

知的好奇心	◎
本質を理解する力	◎
論理的に考える力	◎
多様性を理解する力	◎
チームワークよく成し遂げる力	◎
様々な人と対話する力	◎
他者の立場と痛みを感じる力	◎
意志や情報を発信する力	◎
自ら行動する力	◎
自己を受け止める力	◎
自己反省する力	◎
自信を生み出す力	◎

【**教科書**】随時指定する

【**参考文献**】加賀美常美代、横田雅弘、坪井健、工藤和宏(2012)『多文化社会の偏見・差別:形成のメカニズムと低減のための教育』明石書店

駒沢大学社会学科坪井ゼミ(編著)(2012)『ココロのバリアを溶かすーヒューマンライブラリー事始め』人間の科学社

興梠寛(2011)『希望への力:地球市民社会のボランティア学』光生館

唐木清志(2010)『アメリカ公民教育におけるサービス・ラーニング』東信堂

サラ・コナリー、マージット・ミサンギ・ワッツ(山田一隆、井上泰夫訳)(2010)『関係性の学び方:「学び」のコミュニティとサービスラーニング』晃洋書房

河井亨(2014)「リフレクションを支援する教授法についての探究—Learning Through Critical Reflectionの分析を通じて」『福祉教育・ボランティア学習の新機軸—学際性と変革性』大学図書出版 pp.189-203

白井利明・高橋一郎『よくわかる卒論の書き方』ミネルバ書房

【**評価方法**】プロジェクトの企画、実施、振り返り/評価の一連の活動を基に総合評価。

【**履修の条件**】山下ゼミ生であること

【**聴講生・科目等履修生受入**】否

【**他学科生・他専攻生受入**】否

【**他学部生受入**】否

【**当該科目に関連する開設科目**】国際コミュニケーション論

【**使用言語**】日本語

【**担当者からの一言**】一人一人が励まし合い、ゼミで学びたい目的・ビジョンを明確にし、好奇心・向上心を持って取り組んで欲しい。